

● 使用材料・使用器具

使用材料

| | |
|------------|------------|
| キクスイ | 15kg/缶 |
| プライマースーパーE | |
| グラナダ弾性 | 20kg/缶 |
| 専用骨材 | 3厘 20kg/紙袋 |
| | 5厘 20kg/紙袋 |

使用器具

| | |
|------|-----------|
| 計量 | 秤 |
| 下塗り | エアレススプレー等 |
| 基層塗り | リシガン |
| 模様塗り | スタッコガン |
| 模様付け | バリエローラー |

● 標準施工仕様

(23℃、50%RH)

| 工程 | 使用材料 | 調合 (重量比) | 所要量 (kg/m ²) | 塗り 回数 | 工程間隔時間(hr) | | 備考 | |
|------------|-------------------------------------------|-------------|-----------------------------|----------|------------|-----|--------------------------------------|---------|
| | | | | | 工程内 | 工程間 | | |
| 下塗り | キクスイ プライマースーパーE | 15kg 無希釈 | 0.1~0.19 | 1 | | 3以上 | エアレススプレー等 | |
| 基層塗り | グラナダ弾性 | 20kg | 0.8~1.0 | 1 | — | 6以上 | リシガン 口径:4~6mm 吹圧:0.5~0.6MPa | |
| | 清水 | 吹付け塗り | | | | | | 1~2kg |
| | | コテ塗り | | | | | | 0~0.5kg |
| 模様塗り | グラナダ弾性 | 20kg | 2.5~3.0 | 1 | — | | スタッコガン 口径:8~10mm 吹圧:0.5~0.6MPa | |
| | 専用骨材 | 3厘 | | | | | | 6.0kg |
| | 専用骨材 | 5厘 | | | | | | 7.5kg |
| | 清水 | | | | | | | 0~0.5kg |
| パターン 付け | 凹凸大玉模様吹き出し後、バリエローラーを使用し、横方向に峡谷様の溝意匠付けをする。 | | | | | | 追っかけ 模様付け | バリエローラー |
| 養生撤去 | 養生シートなどの撤去を行う。 | | | | | — | 直後又は 乾燥後 | |
| 最終養生 | 施工後、降雨の恐れのある場合は適切な保護養生をする。 | | | | | — | 24以上 | |

● 標準施工要領

1. 下塗り

- ①下塗材は、下地の状況に合わせて、適切な下塗材を選定する。
- ②下塗りは、下地の吸い込みとそのばらつきを防ぐため、だれ、塗り残しのないように均一に塗り付ける。コーナー部など入隅、出隅は特に入念に塗付する。

2. 基層塗り

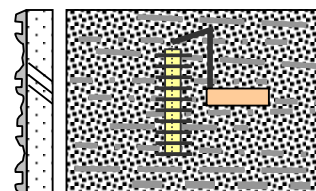
- ①開缶後缶壁に付着した主材を缶内に落とし、一度均一にまぜる。
- ②主材に、指定量内の清水を加えハンドミキサーなどで均一に混合し、定められた模様になるように粘度を調整する。計量は秤などを使用する。
- ③基層塗りは、下地がスケないようにリシガンで吹き付けるか、又はコテなどを使用し塗り付ける。

3. 模様塗り

- ①出隅、入隅、開口部廻などは25mm幅の装飾養生をする。また、大面積連続壁の、特に妻壁は各階などで、また長スパン壁は適度なスパンで装飾養生を取るようにする。
- ②主材は、定められた模様になるように指定された骨材・清水を加え、ハンドミキサーなどで均一に混合する。なお、材料の計量は秤を使用し、希釈水量はあらかじめ試し塗りして決める。
- ③模様塗りは仕様にあった施工用具を使用し、指定された所要量を凹凸大玉模様で吹き付ける。

4. パターン付け

- ①パターン付けは、模様塗りと並行して追っかけで行う。凹凸大玉模様吹き出し後、バリエローラーを使用し、横方向に峡谷様の溝意匠付けをする。
- ②吹付けパターンの大きさ、バリエローラーの転がし間隔、ランダムさなどにより仕上がり感が異なるため、見本板などであらかじめ確認を行っておくようにする。
- ③表面皮張りが早い場合、直射日光など避けて施工する。
- ④模様塗り・パターン付けは右側から左側に向け施工して行く。
- ⑤標準意匠は、10~20mmの玉模様吹き出しの玉模様部分にランダムに3~4mm幅の峡谷様の溝が付加された意匠。
- ⑥溝跡は、ラフにランダムに付けていくようにする。
- ⑦パターンは、壁全体のバランスも考慮して整える。



5. 養生撤去他

- ①養生の撤去は、施工終了後直ちに行う。すぐにできない場合は、材料が完全に乾燥した後、慎重に行うこととする。なお、水切部などにバリの出ている場合は、カッターナイフで取るようにする。
- ②施工後、降雨の恐れのある場合は適切な保護養生をする。
- ③足場つなぎ部のタッチアップ補修を行う。